

【様式】

令和5年度 学校マネジメントシート

学校名 (杉の子特別支援学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		一人ひとりの可能性を伸ばし、生きる力を育む学校をめざす
(2)	育みたい 児童生徒像	○自立と社会参画をめざし、主体的に取り組む子ども ○自己肯定感と他者を思いやる気持ちを持ち、自他の命を大切にし、人権感覚あふれる子ども
	ありたい 教職員像	○多様化、複雑化する社会に対応し、学び続ける姿勢を持った教員 ○豊かな人権感覚を持ち、子どもの成長を保護者と喜び合える教員 ○知的障がい教育および肢体不自由教育における高い専門性を有する教員 ○計画的で柔軟かつ組織的な対応ができ、教育・福祉・医療等関係機関と連携した教育活動に取り組める教員 ○教育公務員としての責務を自覚し、自らを律することができる教員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p><児童生徒> 様々な体験的な学習や自分自身が活躍できる経験を通して、将来の自分らしく生活するために必要な力を、楽しく身に着けたいと望んでいる。</p> <p><保護者> 安全安心な学習環境の維持と児童生徒一人ひとりの特性に応じた教育の充実、卒業後の進路実現を期待する声大きい。</p> <p><地域・関係機関> 鈴鹿亀山地域の特別支援学校として、地域の特別支援教育の推進に向けたセンター的機能を充実させてほしい。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p><保護者> 連携・協力するために、児童生徒や学校の現状を知らせてほしい。</p> <p><地域の学校> 特別支援教育に係る情報提供や共生社会の実現に向けた交流教育を進めてほしい。</p> <p><地域の関係機関(企業・福祉施設等)> 連携・協力するための情報提供をしてほしい。</p> <p><地域社会> 共生社会の実現に向けて、ともに活動できる機会を提供してほしい。</p> <p><石薬師高校> 連携・協力するための情報提供をしてほしい。</p>	<p><保護者> 子どもの規則正しい生活と子どもの心に寄り添う子育てに協力してほしい。</p> <p><地域の学校> 交流教育の受入と充実に協力してほしい。</p> <p><地域の関係機関(企業・福祉施設等)> 学校の教育活動を理解し、卒業後を見据えた実習等、連携した取組を継続してほしい。</p> <p><地域社会> 学校の教育活動を理解し、児童生徒が活躍できる場を提供してほしい。</p> <p><石薬師高校> 身近な共生社会として、ともに活動する機会を作ってほしい。</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<p>学校再編により、杉の子特別支援学校は、鈴鹿亀山地域の肢体不自由のある児童生徒と知的障がいのある児童生徒の通う学校となった。これまで以上に、肢体不自由教育及び知的障がい教育の充実に取り組む必要がある。</p> <p>学校再編にともなう学習環境の変化における児童生徒保護者の不安を心配する声が寄せられている。児童生徒保護者の思いに沿った取組が求められている。</p> <p>地域の特別支援学校として、センター的機能の充実や地域と協働した学校づくりを求める声が高まっている。</p> <p>令和4年度の差別事象に係る取組では、教職員の児童生徒の特性を捉えた丁寧な指導と生徒の実践行動力の育成という成果があった。継続した取組を行いたい。</p>	

(4) 現状と課題	教育活動	<p>肢体不自由教育、知的障がい教育の充実に向けて、学習指導要領に即した教科指導を行う必要がある。そのために、教育課程の見直しと年間計画の整備が急がれる。</p> <p>また、児童生徒の自立と社会参画をめざし、系統的なキャリア教育の推進が求められている。地域と連携することにより、学びの場を広げ、児童生徒のキャリア発達を促進したい。</p> <p>令和4年度の差別事象を踏まえ、引き続き児童生徒の発達段階に応じた教育を進め、自ら周囲の者に相談する力や人権を守るための実践行動をとれるよう、命を大切にする教育を一層推進する。</p>
	学校運営等	<p>新しい学校体制における児童生徒保護者の不安に寄り添い、安全安心な学校づくりに取り組む。</p> <p>管理職がリーダーシップを発揮し、ワークシェアの推進、組織全体での応援体制がとれるよう仕組みづくりに取り組む。</p> <p>スクールボランティアの再開や地域とのつながりを強化し、地域と協働した学校づくりを推進する。</p>

3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>(教育課程の整備)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領に即した年間計画の整理、教育課程の見直しを行い、教科学習を充実させる。 <p>(キャリア教育の充実)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の発達段階に応じ、地域と関わる学習や作業学習、実習や職業体験学習を通してキャリア発達を促進させる。 <p>(命を大切にする教育の充実)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度差別事象を踏まえ、児童生徒への丁寧なかかわりを継続し、自尊感情を育む教育と児童生徒のつながりを確かなものにする仲間づくりに取り組むとともに、知識的側面を強化した人権学習や葛藤のある人権学習を通して、実践行動力を育成する。 ・自分も相手も大切にする性に関する指導を強化する。 ・いじめにかかる実態の把握に努めるとともに、迅速かつ組織的対応の強化、児童生徒による主体的な活動の充実に取り組む。
学校運営等	<p>(信頼される学校づくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい学校体制への不安等、児童生徒や保護者の思いに寄り添った指導に取り組む。 ・研修受講を奨励するとともに研修の機会を保障し、教職員の専門性の向上をめざす。 ・「信頼される学校であるための行動計画」に基づき、年間を通じたコンプライアンス研修、風通しの良い職場づくりに取り組み、杉の子特別支援学校における不祥事を根絶する。 <p>(安全安心な学校づくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バス運行会社と連携し、安全なスクールバス運行に取り組むとともに、自主通学生の通学路点検を実施し、児童生徒の登下校の安全の確保に取り組む。 ・災害備蓄品の整備や要支援者受入を視野に入れた体制整備に取り組み、災害対策を充実させる。 ・危機管理マニュアルの整備・更新を行う。 <p>(センター的機能の充実)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校・分校コーディネーターによるチーム支援や夏季公開講座等に取り組み、地域の特別支援教育を推進する。 ・教育相談、就学支援委員会等の機会における情報収集と関係機関と連携した支援体制の構築により、校内支援を充実させる。 <p>(地域協働の取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会の行事や地域の人権フェスティバル等に参加する。 ・スクールボランティアの再開や加佐登探検隊、芋ほり、幼稚園訪問など地域と連携した活動を充実させる。 ・石薬師高等学校とのつながりを、図書館利用や避難訓練、オフサイトミーティング等とともに取り組むことで強化する。 <p>(働きやすい職場づくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理職がリーダーシップを発揮してワークシェアを推進し、業務の偏りの解消に努める。 ・令和6年度を見据えた組織づくりに取り組み、持続可能な学校組織づくりを推進する。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
○教育課程の整備	<p>(1) 新学習指導要領に即した小中高の連続性のある教育課程の見直し</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6月までに作成し、令和6年度教科書選択に反映する。 <p>(2) 観点別学習状況の評価を位置付けた年間計画の整備</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 12月までに作成し、令和6年度年間計画に反映する。 <p>(3) 観点別学習状況の評価を明記した授業実践</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導路案の作成 年2回 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育課程検討委員会(3回)開催。令和6年度教育課程の整備済 ・ 作成済 ・ 2回実施 	
○キャリア教育の充実	<p>(1) キャリア教育プログラムに基づいた授業の充実</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新学習指導要領に対応したキャリア教育プログラムの点検と修正 令和5年度内 ・ 専門家を招いてキャリア教育プログラム及びその活用についての検討 2回 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ キャリア教育プログラムの活用についての教員アンケートの満足度 85%以上 <p>(2) 社会参画への準備や卒業後の生活を見据えた指導の充実(高等部)</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 働くことの意義や知識技能を身に付けることを目的とした作業学習や、現場実習等の実施 作業学習 週1時限 現場実習 2年生1回、3年生2~3回 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の希望する進路の実現 100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1回実施 ・ 2回実施 ・ 満足度93.6% ・ 週1時限実施 ・ 2年生1回実施 ・ 3年生2回実施 ・ 100% 	

○命を大切に する教 育の充実	(3) 進路実現に向け、保護者と連携した取組の推進		
	【活動指標】		
	・進路相談会の実施	必要に応じて	・小学部2回実施 高等部4回実施
	・進路希望アンケートの実施	1回	・1回実施
	・進路だよりによる情報提供	年4回以上	・3回発行
	・キャリア教育プログラムの保護者周知	年1回	・1回実施
・保護者対象進路学習会	年1回	・1回実施	
【成果指標】			
・進路指導についての保護者の満足度	80%以上	・100%	
(1) 自分を大切にし、ちがいを認め合い、適切な人間関係を形成する取組の推進			
【活動指標】			
・杉の子人権週間での取組	年3回	・3回実施	
・杉の子ネットを活用した教育実践の共有	年3回	・3回実施	
(2) 自分や他者の心とからだを大切にした性に関する指導の推進			
【活動指標】			
・集団及び個別の指導	通年	・機会をとらえ実施	
(3) 命を大切にし、互いを思いやり、いじめを許さない態度を養う指導の推進			
【活動指標】			
・児童生徒会でいじめ防止のメッセージを、全児童生徒に動画等で伝える	5シリーズ	・5回実施	
・いじめ防止強化月間における、児童生徒会による掲示物の作成と、いじめ防止学習の実施	4・11月	・4・11月実施	
・いじめアンケートの実施と実態把握	年3回	・3回実施	
・いじめ早期発見のための気づきリストによる実態把握	年3回	・3回実施	

改善課題

成果指標・活動指標ともにおおむね達成できた。

次年度も引き続き、以下の課題解決に取り組む。

○教育課程の整備

知的障がい教育課程および肢体不自由児教育課程について、一定整備された。さらにどのように取り組んでいくかについて、引き続き、子どもの実態に合わせたカリキュラムに取り組む必要がある。

○キャリア教育の充実

系統的なキャリア教育プログラムを意識した授業実践を重ねるとともに、卒業後を見据えた取組について、小中高の連携を図りながら、実践の振り返りを行う。また、知的障がい教育課程にかかる進路情報についても保護者に発信していく。

○命を大切にする教育の充実

児童の発達段階や機会を捉えての指導や、児童生徒会活動をとおしての活動や情報発信に取り組んだ。引き続き、人権教育カリキュラムに基づき、自分を大切にし、お互いを認め合い、適切な人間関係を形成する取組を推進する。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」:定期的に進捗を管理する取組 「◎」:最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
○教職員の専門性の向上	<p>(1) 児童生徒が主体的に活動できるための授業づくりや支援についての取組</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部研修の実施 5回 ・専門家を招聘したケース検討会の実施 2回 ・夏季公開講座の実施 1回 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部別研修アンケート満足度 80%以上 ・ケース検討会アンケート満足度 80%以上 ・夏季公開講座参加者アンケート満足度 80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・5回実施 ・2回実施 ・1回実施 <ul style="list-style-type: none"> ・100% ・100% ・97.8% 	
○信頼される学校づくり	<p>(1) クラスだより・学部だより・学校だより、ホームページ等、様々な媒体を活用した情報の発信</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページでの情報発信 各学部月1回以上 <p>(2) 専門性の高い教育の提供</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの専門性を高める主体的な研修の受講 年1回以上 ・セラピスト(S T)による自立活動支援の充実 校内のべ支援回数 200回以上 ・肢体不自由児生徒増加にともなう教育環境の整備 年1回以上 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セラピスト(S T)による支援に対する教職員満足度 80%以上 <p>(3) 教職員のコンプライアンスの意識の向上</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不祥事防止研修プログラムとコンプライアンスミーティングの実施 年14回 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修満足度 80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページや学部だより等にて月1回以上 <ul style="list-style-type: none"> ・全教職員達成 ・252回 ・本校再編委員会 食形態検討委員会 年1回以上 <ul style="list-style-type: none"> ・92% <ul style="list-style-type: none"> ・14回実施 <ul style="list-style-type: none"> ・97.2% 	
○安全安心な学校づくり	<p>(1) 不審者や医療を要する緊急時等に適切に対応できるよう、研修会や訓練の実施</p>		

○センター的機能の充実	<p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不審者対応訓練の実施 年1回 ・救急法の実施 年1回 ・医療的ケア児の緊急対応訓練 1人につき1回以上 ・スクールバス事故対応訓練 年4回 ・児童失踪対応の図上訓練 年1回 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各訓練の職員満足度 80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・1回実施 ・1回実施 ・1人につき1回以上実施 ・未実施 ・1回実施 <ul style="list-style-type: none"> ・不審者対応訓練満足度97% ・救命救急法研修会満足度97% ・医療的ケア訓練満足度100% 	
	<p>(2) 教職員の防災意識の向上と、火災・地震等を想定した訓練の実施</p>		
	<p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒対象の外部講師による防災学習の実施 年1回 ・避難訓練の実施 年3回 ・教職員対象の防災危機管理等の研修 年1回 ・防災等の等の取組について、ホームページへの掲載及びプリントによる保護者への情報提供 年3回以上 ・災害備蓄品の確認及び検討 年1回以上 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災危機管理等研修の職員満足度 80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・1回実施 ・3回実施 ・1回実施 ・防災だより4回発行 ・1回実施 <ul style="list-style-type: none"> ・満足度91% 	
	<p>(3) 熱中症対策の徹底</p>		
	<p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暑さ指数の測定（中庭運動スペース）6月～9月毎日実施 ・暑さ指数31以上で屋外活動を中止 100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日実施 ・実施率100% 	
	<p>(1) 鈴鹿亀山地域の特別支援教育の充実をめざし、本校・分校の特別支援教育コーディネーターによるチーム支援の取組</p>		
	<p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の保幼小中高等への教育相談の実施 必要に応じて ・かがやき特別支援学校と連携した地域支援（三次支援）の実施 必要に応じて 	<ul style="list-style-type: none"> ・92回 ・4回 	
	<p>(2) 鈴鹿亀山地域の特別支援教育の専門性の向上</p>		
	<p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏季公開講座（研修部主催）の情報発信 1回 ・参加者のニーズに合わせた体験研修の実施 2回 	<ul style="list-style-type: none"> ・1回実施 ・2回実施 	

○地域協働 の取組	<p>【成果指数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏季公開講座（研修部主催）参加者アンケート満足度 80%以上 ・体験研修参加者のニーズに対する満足度 80%以上 <p>（1）スクールボランティアや地域の協力を得て、本校の教育力の向上の取組</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールボランティア（社会福祉協議会・地域敬老会等）による活動 年2回以上 <p>（2）福祉事業所と連携し、地域の支援体制を充実させる。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉事業所との懇談会 年1回 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施後の教職員アンケートの満足度 80% <p>（3）「杉の子バスの店」をとおした地域の商業施設との連携</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページやPTA通信などをとおして、スクールバス乗降場所協力店舗の紹介 年1回以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・98% ・100% <ul style="list-style-type: none"> ・4回実施 <ul style="list-style-type: none"> ・1回実施 <ul style="list-style-type: none"> ・100% <ul style="list-style-type: none"> ・1回実施 	
○働きやすい職場づくり	<p>（1）働き方改革に基づく働きやすい職場づくりの取組</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オフサイトミーティングによる職員間の円滑なコミュニケーションの促進 1回 ・設定した日の定時に退校できた教職員の割合 95%以上 ・放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合 85%以上 ・定時退校日の設定 1回/月 ・ノー会議デーの設定 25日/年 ・時間外労働の「上限時間」の遵守 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員アンケートによる働きやすい職場率 80%以上 ・時間外在校等時間が年360時間を超える教職員数 0人 ・時間外在校等時間が月45時間を超える教職員の延べ人数 0人 ・一人当たりの月平均時間外労働 30時間以下 ・一人当たりの年次休暇取得平均日数 12日以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・1回実施 ・96.2% ・94.4% ・23回設定 ・26日設定 ・遵守 ・82.1% ・0人 ・0人 ・4.2時間 ・15日 	

改善課題

成果指標・活動指標ともにおおむね達成できた。

次年度も引き続き、以下の課題解決に取り組む。

○教職員の専門性の向上、センター的機能の充実

引き続き、知的障がい教育課程の研修の充実を図るとともに、小中高の系統性、重度重複障がい児を含めた肢体不自由教育について専門性や授業力の向上、安心安全な医療的ケア実施のための体制を整えるとともに、地域におけるセンター的機能の充実を図る必要がある。

○危機管理体制の強化

危機管理体制の再構築、重度重複障がい児を含めた肢体不自由児や医療的ケア児の増加に伴う体制整備および緊急対応の見直しなどに取り組む必要がある。また、スクールバス対応訓練などより実践的な訓練を重ねるとともに、地震発生時の学校体制の再構築など危機的対応に適切に対応できるように取り組む必要がある。

○保護者や地域との連携

新型コロナウイルスの5類に引き上げられ様々な教育活動がコロナ以前に戻るなか、保護者や地域との新たな連携のあり方を検討する必要がある。

○働きやすい職場づくり、信頼される学校づくり

月45時間を超える時間外労働者は0人だったが業務の偏りがみられるため、一層の業務精選とワークシェアに取り組む必要がある。さらに、学校への信頼向上につながるようコンプライアンス研修に取り組む。

5 学校関係者評価

明らかにになった改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none">○信頼される学校づくり<ul style="list-style-type: none">・保護者アンケートの満足度が高い結果であったが、引き続き、学校の情報発信を重ね、保護者との連携を図りながら学校運営に努めていく。○安全安心な学校づくり<ul style="list-style-type: none">・能登半島地震時にダンゴムシのポーズをとった子どもがいるように、日々の教育活動のなかでの取組や積み重ねが、子どもたちの力につながっている。引き続き、機会を捉えた指導に取り組んでいく。・学校までの進入路が学校所有地ではないため様々な課題はあるが、保護者が安全・安心と思える環境整備に取り組んでいく。○地域協働の取組<ul style="list-style-type: none">・情報発信の方法として地区回覧板を活用し、学校の情報発信をするとともに、地域の協力が得られるように取り組んでいく。・回覧板を活用すれば、スクールボランティアも集まると思う。
----------------------	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none">○教育課程の整備<ul style="list-style-type: none">・整備された教育課程に基づき、子どもの実態に合わせたカリキュラムに取り組む。○キャリア教育の充実<ul style="list-style-type: none">・系統的なキャリア教育プログラムを意識した授業実践を重ねるとともに、卒業後を見据えた取組について、小中高の連携を図りながら、実践の振り返りを行う。・知的障がい教育課程にかかる進路情報について、引き続き、保護者に発信していく。○命を大切にす教育の充実<ul style="list-style-type: none">・人権教育カリキュラムに基づき、自分を大切にし、お互いを認め合い、適切な人間関係を形成する取組を推進する。
--------------	--

学校運営について
の改善策

○教職員の専門性の向上、センター的機能の充実

- ・小中高の系統性を担保した知的障がい教育課程の研修の充実を図り、教職員の専門性や授業力の向上に努める。
- ・重度重複障がい児を含めた肢体不自由教育について、教職員の専門性に努めるとともに、安心安全な医療的ケア実施のための体制を整える。
- ・地域に対して、特別支援教育にかかる情報を発信するとともに、相談機能を充実させることで、さらなるセンター的機能の充実を図る。

○安全安心な学校づくり

- ・重度重複障がい児を含めた肢体不自由児や医療的ケア児の増加に伴う体制整備および緊急対応の見直しなどに取り組む。
- ・スクールバス対応訓練などより実践的な訓練を重ねる。
- ・危機管理体制の再構築として、地震発生時の学校体制に適切に対応できるように取り組む。
- ・保護者が安全安心と思える環境整備に取り組んでいく。

○保護者や地域との連携

- ・保護者や地域との新たな連携のあり方を検討する。また、情報発信の方法についても検討する。

○働きやすい職場づくり、信頼される学校づくり

- ・業務の偏りがみられるため、一層の業務精選とワークシェアに取り組む。
- ・学校への信頼向上につながるようコンプライアンス研修に取り組む。